

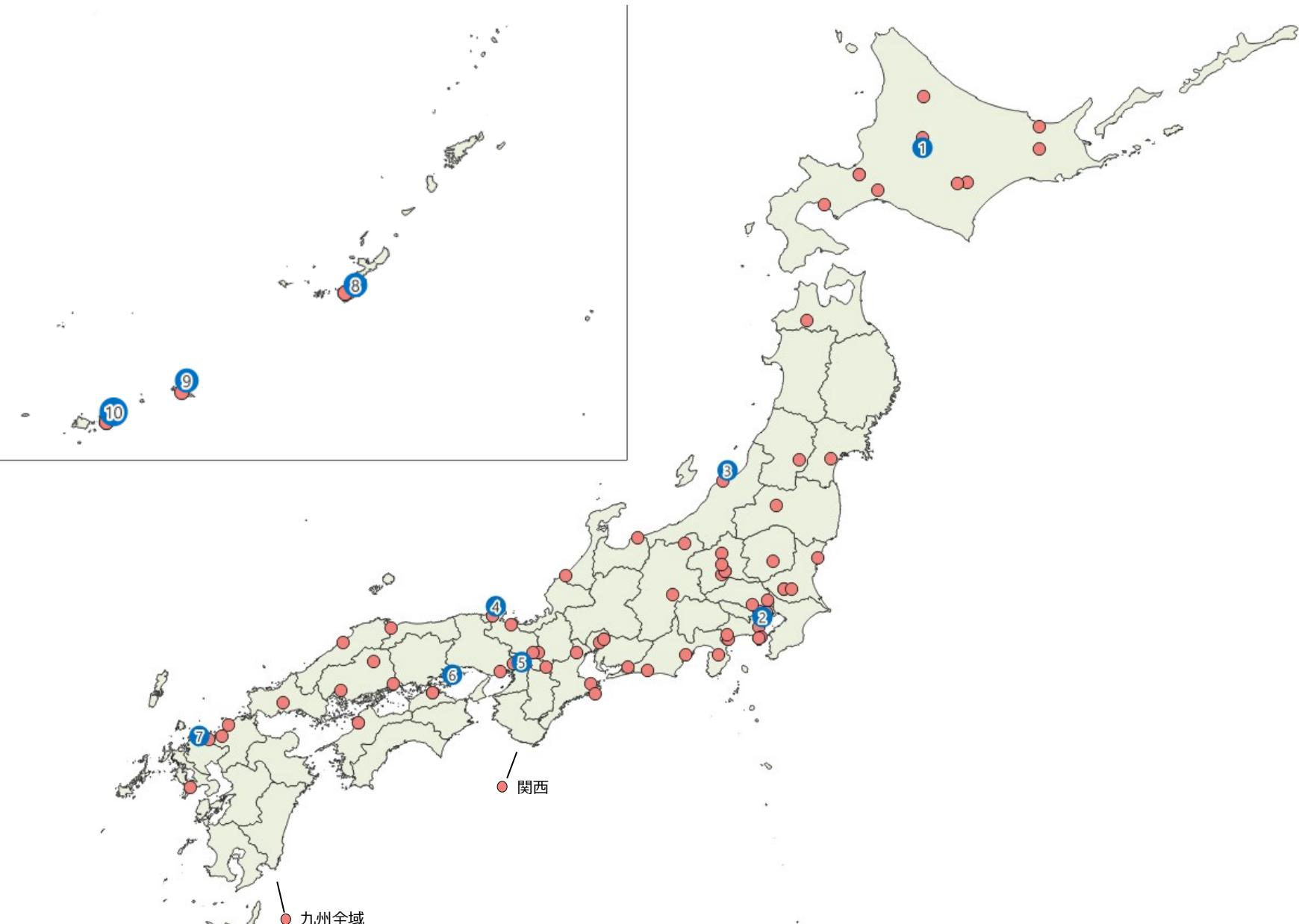
令和7年度 日本版MaaS推進・支援事業(2次公募)の10事業について

令和7年度(2次公募)の選定地域一覧

- 令和7年度採択案件(2次公募)
- 過年度採択案件

R7年度（2次公募）10事業

- 1.北海道富良野市
- 2.神奈川県横浜市
- 3.新潟県新潟市
- 4.京都府京丹後市
- 5.大阪府大阪市
- 6.香川県小豆島町
- 7.佐賀県唐津市
- 8.沖縄県南城市
- 9.沖縄県宮古島市
- 10.沖縄県竹富町(西表島、由布島)



各事業の取組概要

※公募申請時の資料のため、今後、変更の可能性があります。

課題

富良野市は人口減少と高齢化が進行しており、特に郊外地域で高齢化が顕著。公共交通の利用者数は減少傾向にあり、日中の利用が少ないことが課題。市民の移動ニーズに応じた交通網の再編や観光客の移動手段の充実も重要。居住地域によらず公共交通が移動選択肢として位置づけられること、市民及び来訪者の広域的な移動を支援する公共交通の維持、公共交通の利用促進、様々な分野と連携した総合的なサービスの実現が課題。

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
ふらのバスへのsteratransitの導入によるキャッシュレス化の促進と同一地域で営業する富良野タクシーとの連動性を高め、市民および観光客の利便性向上を目指す。

(生活者向けサービスの向上)

- ・公共交通のキャッシュレス化
- ・富良野タクシーとの連携サービス
- ・デジタル企画乗車券の造成および観光客向けの情報発信の拡大

[モビリティ・データの取得と活用]

タッチ決済による交通利用と消費、観光活動をキャッシュレスデータから分析

[地域交通政策等との連携]

富良野市地域公共交通計画では、「広域交通の維持(旭川方面への移動利便性向上)」「ICT化による決済方法の実現(市民の利便性向上)」「観光交通の充実」「福祉分野との連携」等が謳われており、本プロジェクトと合致する

効果

- 市民および観光客両面での公共交通の利便性向上
- 現金取り扱い量の減少による効率的な企業経営
- ふらのバス・富良野タクシー双方の利用者増加

事業の新規性

- ・利用者の分析データのオープン化(富良野市HP等で公開を検討)
- ・steratransit利用データの分析による観光交通計画の高度化の検討
- ・沿線の観光地・宿泊施設と連携した公共交通利用促進の取組み
(利用者アンケート等により、宿泊施設との連携サービスの拡充を調査)

事業エリア
/交通事業
(予定)

事業エリア：富良野市
交通事業：ふらのバス(株)、(株)富良野タクシー

MaaS
アプリ等

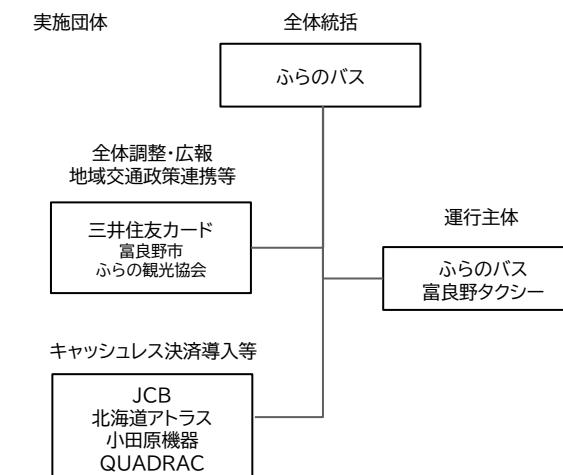
steratransit、SMCC MaaSアプリ

データの
活用等

- データの取得方法:steratransit、Custella transit、JCB Data Driver
- データの活用方法
目的:乗降データやユーザー属性・消費データの取得のため
使用するサービス:steratransit

座組

実施団体



スケジュール

- | | |
|----------------|--------------------|
| 11月 サービス要件検討 | 12月 システム開発～テスト環境試験 |
| 2月 本番環境試験～実証運行 | 3月 効果測定 |

課題

水上交通(水上タクシーを言います。以下同じ。)の需要は一定数あるものの、航路検索や決済機能の高度化がされておらず、各事業者が連携した利用促進も不十分なため、陸上交通の代替手段としての浸透が課題。

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
水上タクシーと陸上タクシーをボーダレスに移動手段として検索・手配できるプラットフォームを作成し、課題である地域の交通空白を埋めることができか実証実験する。
GPS機能を用いて水上・陸上の各事業者が提供する車両・船舶をマップ上に表示し、現在地を可視化できるようにし、所要時間の検索を実装する。
サイト・アプリサービス上で、キャッシュレス決済機能を実装する。

シェアサイクル事業者等と連携して、鉄道・バス以外の多様な移動手段を提供できるようチケット・クーポンをアプリ内で提供する

[モビリティ・データの取得と活用]

利用者のデータを取得し、需要が見込まれる新たな水上航路の設定に活用。
横浜市の担当部局は周辺の交通事業者に連携し、他事業者との連携を通じて、海上交通や海上観光の振興に活用する。

[地域交通政策等との連携]

地域公共交通計画では、新しい交通の創出や促進を方針として掲げており、MaaSアプリを用いて、新しい切り口で水上・陸上タクシーの利用促進を図り、アプリから取得したODデータや利用者情報を活用し、今後の計画に活用する。

プロジェクト概要

効果

交通サービスの高度化とともに利用浸透により、交通手段の選択肢の一つとして水上交通が確立する。

利用者のデータ収集により、水上交通および複合的な交通サービスの活用データを蓄積できる。

事業の新規性

- 本プロジェクトは、交通サービスの高度化が他の交通事業者と比べて進んでいない水上交通の分野において、本邦初の取り組みであり、新規性が認められると思料する。

行政区域:横浜市

水上交通:biid株式会社、有限会社港曳船店、株式会社Umimawari.
ChottoYokohama株式会社(車両による送迎)

陸上交通:平和交通株式会社

事業エリア
/交通事業
(予定)

(利用するシステムやサービスの製品名を記載)
GoogleMap:Maps JavaScript API
フロントエンド:スクラッチ開発
バックエンド:スクラッチ開発
決済システム:fincode

MaaS
アプリ等

- データの取得方法:オリジナルWEBアプリから利用者情報
- データの活用方法:(データ活用に使用するシステムやサービス)
利用者情報・種別・OD情報・円でコンテンツの利用情報等のデータをLooker Studio上でグラフ及びGISで可視化し、航路路線の曜日・時間帯の再編や集客チャンネルの検討ならびに合わせて観光消費のサービス提供効率を図る

データの
活用等

座組

ダッシュボードシステム:Google Looker Studio

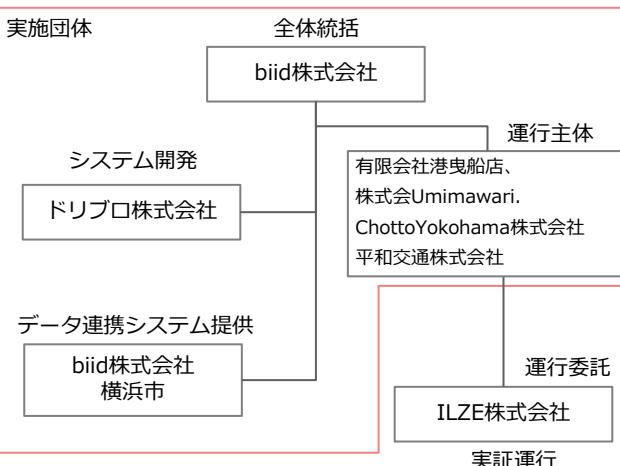
スケジュール

11月～11月末日 要件定義

12月～12月末日 システム開発

1月～2月末日 実証運行

～2月末日 効果測定



課題

- 新潟市は主要観光エリアが分散し、物理的な接続性が低く、観光客が効率的に回遊しづらい状況にある。これを克服すべく、路線バス、シェアサイクル及び県内高速バスの連携による企画立案とサービス認知向上が課題。
- また将来的に持続可能な交通網の策定に向け、各種連携により得られる行動データの分析結果を交通網再編や交通施策へ迅速に反映するための分析基盤の構築が急がれる。

バスユーザー向けアプリ「りゅーとLink」データ(属性・行動)とバス乗降データを紐づけた顧客データのクロス集計の工程に、データ抽出・可視化作業を効率的に行う分析基盤(BIツール)を導入することで、アプリの効果を最大化し、以下の要素を可能とする。

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- アプリ内の購入・決済でシームレスな移動体験が可能になる路線バスと県内高速バスのセット乗車券設定において、各種データのクロス分析により、ターゲットを明確にしてより利用者の需要に沿った企画乗車券の造成が可能。

[モビリティ・データの取得と活用]

- ICカードで取得するバスの乗降データに加え、アプリ連携しているシェアサイクル利用データやアプリ内で決済・提供する県内高速バスとの企画乗車券等の購入データを取得・分析し、利用者の行動パターンや移動目的に合わせ運行ルート再考に活用。
- アプリを通じて各種エンドコンテンツとの連携も拡大させることで、利用者の属性やビハイビアも集計する。モビリティデータと属性・ビハイビアデータをクロス分析することによって顧客解像度の高いデータを蓄積し、そのデータを活用したい企業を顧客とした運賃外の新事業検討により、交通網維持の障壁である収益面も補う。

[地域交通政策等との連携]

- 本申請書記載施策と新潟市地域公共交通計画ならびに新潟県内高速バスネットワーク計画とは密に連携済み。ICカードで取得した乗降データとアプリから取得する利用者情報を活用し、適正な運行ダイヤやバス停位置、路線再編検討に活用する。

プロジェクト概要

効果

- ◇データ分析とその結果のアクションまでのタイムラグを短くすることで、キャンペーンの活性化と営業機会(連携企業開拓)の拡大⇒交通再編の参考となる利用データの集計増加
- ◇マルチモーダル利用増⇒周遊・回遊性アップ⇒店舗誘客⇒機会創出・観光促進に寄与⇒消費金額向上
- ◇データ利活用収益モデルの確立により運賃外の新収益を確保⇒交通網維持の原資獲得

事業の新規性

- 令和6年12月にローンチしたアプリ「りゅーとLink」(9月末現在 25,000DL)に管理機能を追加・拡充。キャンペーンの実施とともに集計作業ならびに分析をスムーズに行うための分析基盤を構築する。
- 行動データ取得のための各種キャンペーンをより活性化するために、行動要素確認として既存他社アプリとの連携を行える連携プラットフォームの機能実装。

事業エリア
/交通事業
(予定)

事業エリア: 新潟市

路線バス: 新潟交通 高速バス: 新潟県内高速バスネットワーク協議会
シェアサイクル: にいがたシェアバイク共同体MaaS
アプリ等

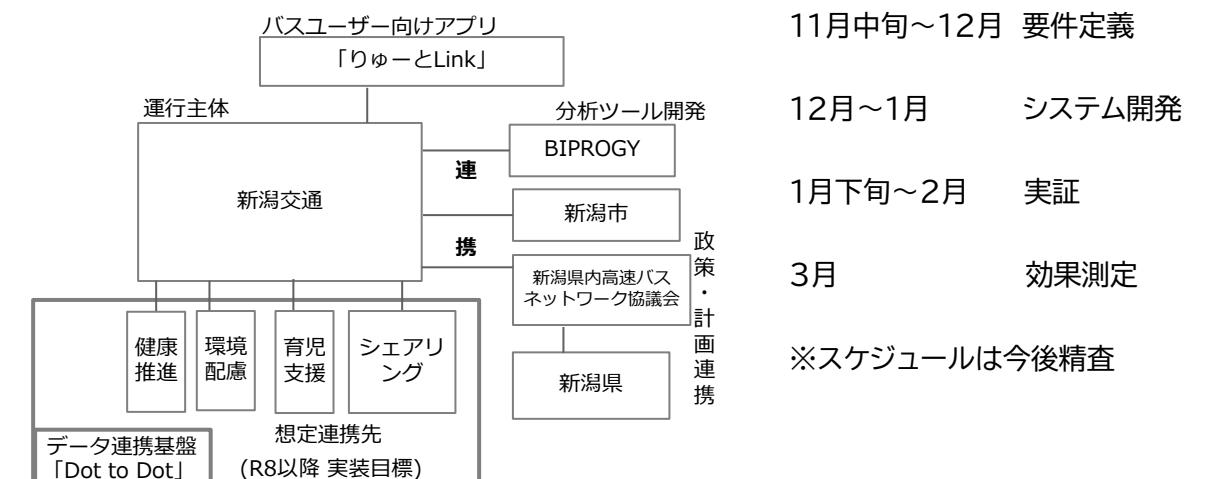
・スマートフォンアプリ「りゅーとLink」

データの
活用等

- データの取得方法: ICカードと車載システムから路線バス及び県内高速バスのODデータと利用者情報を取得。「りゅーとLink」アプリから連携サービスの利用情報を取得。
- データの活用方法: クロス分析し、バス路線再編の基礎データ及び利用者利便サービスの開発、地域企業における顧客理解深度化・運賃外新収益事業の開発に活用。

座組

スケジュール



課題

- 域内に存在するAIオンデマンド交通の行政負担が大きい
- 公共ライドシェアの一般ドライバーの運行管理の手間が大きく負担が大きい
- 生活基盤に必要な移動として、買い物代行、病院送迎、スクールバスなど異業種においても交通の担い手不足が生じている

プロジェクト概要

- [交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
- 既存のマルチモーダル検索に新規の距離制運賃型公共ライドシェアを追加し地域内の交通モードを拡充。エリア全体の公共交通利便性向上への寄与し、一つのアプリで予約から決済までシームレスな移動体験を実現
 - 距離別運賃導入による収益改善による行政負担低減
 - 地域連携に合わせたチケットプラン導入による利用者の利便性向上
 - 地域連携による持続性向上

[モビリティ・データの取得と活用]

- 1次公募で実装予定のデータ基盤に距離別運賃型公共ライドシェアシステムのデータを連携し、既存交通データと掛け合わせた、地域交通データ分析
- MaaSアプリと連携した安全運行管理システム導入による運行管理のDX化、運行管理の負担軽減ならびにモビリティの安全性の維持・向上

[地域交通政策等との連携]

- 京丹後市で導入が予定されている久美浜エリアの新しい公共ライドシェアサービスと連携
- mobiアプリ活用によるエリア内の公共交通とのシームレスな移動体験を利用者に提供し、運行管理システムによるライドシェアドライバーの運行品質管理や事務処理の簡素化を同時に実現し、サービス自体の持続性向上

効果

- 距離別運賃に対応したシステム導入により収益率 10% 収支改善
- 地域連携型の予約システム導入による利便性向上に対する評価 4点以上
- 運行管理DX化によるリソース削減 20%

事業の新規性

- 既存のMaaSアプリ機能に、距離別運賃、チケットラインナップなど収益改善につながる機能拡充。地域異業種との連携モデルをMaaSアプリに実装。
- 京丹後地域では、これまで、AIオンデマンド交通や公共ライドシェアが運行されているが、NPO法人がアナログで対応している。安全は交通の根幹であるため安全管理の品質を維持していくためにも、DX化を推進し、運行管理の品質を維持・向上させ、運行管理リソースを削減する

事業エリア
/交通事業
(予定)

京丹後市域(将来的な沿線地域への展開を想定)
 鉄道:京都丹後鉄道、バス:丹後海陸交通、タクシー:久美浜タクシー・峰山交通・網野タクシー AIオンデマンド交通:mobi、公共ライドシェア・市営バス・:京丹後市、ささえあい交通:NPO、労働者協同組合「TANGO CREW'S」

MaaS
アプリ等

- MaaSプラットフォーム:mobi アプリ
- 公共ライドシェアデマンド交通配車システム:mobi アプリ *DRT/*FLEET
- 地域連携配車・運行管理システム:mobi アプリ *CONECCT

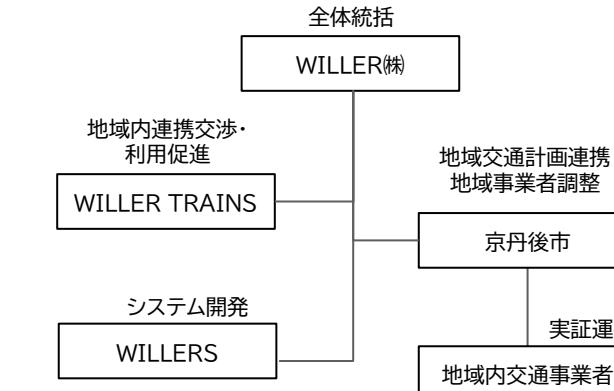
データの
活用等

- データの取得方法:
MaaSアプリのデータベースからデータ基盤、安全運行DXへ連携
- データの活用方法:予約データをBIツール上でグラフ及びGISで可視化し、交通再編の検討に活用。

座組

スケジュール

実施団体



11月 企画・準備・要求整理
地元調整

12月 システム開発

2月下旬 順次システムリリース
実証現場へ導入

3月 効果測定

課題

- 水上交通(水上タクシーを言います。以下同じ。)の需要は一定数あるものの、航路検索や決済機能の高度化がされておらず、各事業者が連携した利用促進も不十分。合わせて地域特性上、陸上交通の需要過多かつ利用者とのマッチングがまだまだ低い。

プロジェクト概要

- [交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
- 水上タクシーと陸上タクシーをボーダレスに移動手段として検索・手配できるプラットフォームを作成し、課題である地域の交通空白を埋めることができか実証実験する。
 - GPS機能を用いて水上・陸上の各事業者が提供する車両・船舶をマップ上に表示し、現在地を可視化できるようにし、所要時間の検索を実装する。
 - サイト・アプリサービス上で、キャッシュレス決済機能を実装する。
 - 鉄道・バス以外の多様な移動手段を提供できるようシェアサイクル事業者等と連携できるような機能をアプリ内で提供する。
- [モビリティ・データの取得と活用]
- 利用者のデータを取得し、需要が見込まれる新たな水上航路の設定に活用。
 - 大阪府、大阪市の担当部局は周辺の交通事業者に連携し、他事業者との連携を通じて、水上交通や水上観光の振興に活用する。
- [地域交通政策等との連携]
- 地域公共交通計画では、新しい交通の創出や促進を方針として掲げており、MaaSアプリを用いて、新しい切り口で水上・陸上タクシーの利用促進を図り、アプリから取得したODデータや利用者情報を活用し、今後の計画に活用する。

効果

- 交通サービスの高度化にともなう利用浸透により、交通手段の選択肢の一つとして水上交通が確立する。
 - 利用者のデータ収集により、水上交通および複合的な交通サービスの活用データを蓄積できる。
- 本プロジェクトは、交通サービスの高度化が他の交通事業者と比べて進んでいない水上交通の分野において、本邦初の取り組みであり、新規性が認められると思料する。

事業の新規性

事業エリア
/交通事業
(予定)

行政区域: 大阪市

水上交通: biid株式会社、インディクルーズ株式会社、藤波通商株式会社、タクシー: ダイヤ交通株式会社、シェアサイクル: 株式会社ドコモ・シェアバイク、株式会社Luup

MaaS
アプリ等

(利用するシステムやサービスの製品名を記載)
 GoogleMap: Maps JavaScript API
 フロントエンド: スクラッチ開発
 バックエンド: スクラッチ開発
 決済システム: fincode

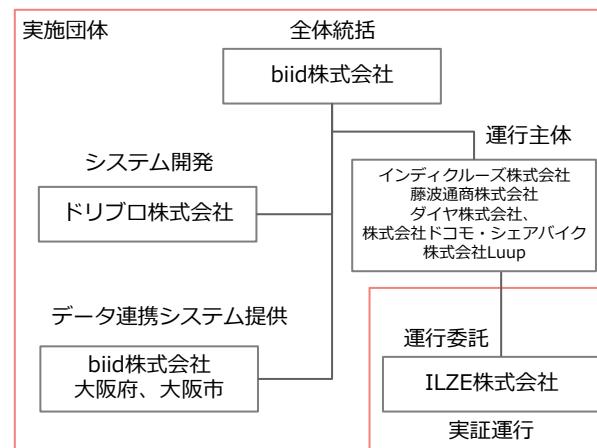
ダッシュボードシステム: Google Looker Studio

データの
活用等

- データの取得方法: オリジナルWEBアプリから利用者情報
- データの活用方法: (データ活用に使用するシステムやサービス)
 利用者情報・種別・OD情報・円でコンテンツの利用情報等のデータをLooker Studio上でグラフ及びGISで可視化し、航路路線の曜日・時間帯の再編や集客チャンネルの検討ならびに合わせて観光消費のサービス提供効率を図る

座組

スケジュール



11月～11月末日 要件定義

12月～12月末日 システム開発

1月～2月末日 実証運行

～2月末日 効果測定

課題

- 地域住民の高齢化が進み、バスの本数も少なく足となる交通手段がない状態。一方で、インバウンドニーズの高まりで観光客のニーズも底堅くある。観光客と共に地域住民が利用しやすい交通インフラを整備できないか。

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 水上タクシーをボーダレスに移動手段として検索・手配できるプラットフォームを作成し、課題である地域の交通空白を埋めることができか実証実験する。
- GPS機能を用いて水上・陸上交通の各事業者が提供する車両・船舶をマップ上に表示し、現在地を可視化できるようにし、所要時間の検索を実装する。
- サイト・アプリサービス上で、キャッシュレス決済機能を実装する。

プロジェクト概要

[モビリティ・データの取得と活用]

- 利用者のデータを取得し、需要が見込まれる新たな水上航路の設定に活用。
- 小豆島町の担当部局は周辺の交通事業者に連携し、他事業者との連携を通じて、海上交通や海上観光の振興に活用する。

[地域交通政策等との連携]

地域公共交通計画では、新しい交通の創出や促進を方針として掲げており、MaaSアプリを用いて、新しい切り口で水上タクシーの利用促進を図り、アプリから取得したODデータや利用者情報を活用し、今後の計画に活用する。

効果

- 交通サービスの高度化にともなう利用浸透により、交通手段の選択肢の一つとして水上交通が確立する。
- 利用者のデータ収集により、水上交通および複合的な交通サービスの活用データを蓄積できる。

事業の新規性

- 本プロジェクトは、交通サービスの高度化が他の交通事業者と比べて進んでいない水上交通の分野において、本邦初の取り組みであり、新規性が認められると思料する。

事業エリア
/交通事業
(予定)

行政区域:小豆島町

水上交通:biid株式会社、Seatiger Island In株式会社、インディクルーズ株式会社、株式会社Urimawari。
陸上交通:小豆島株式会社MaaS
アプリ等

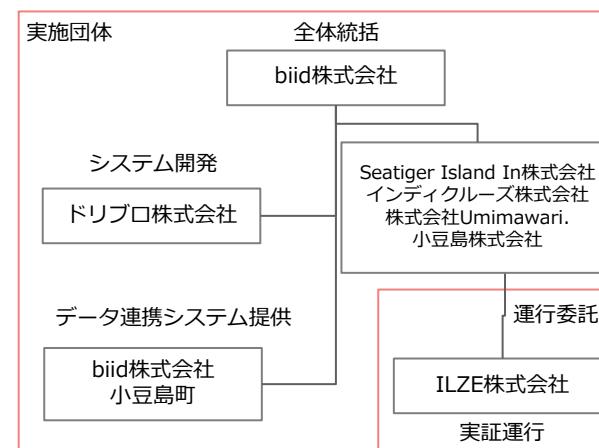
(利用するシステムやサービスの製品名を記載)
 GoogleMap:Maps JavaScript API
 フロントエンド:スクラッチ開発
 バックエンド:スクラッチ開発
 決済システム:fincode

ダッシュボードシステム:Google Looker Studio

データの
活用等

- データの取得方法:オリジナルWEBアプリから利用者情報
- データの活用方法:(データ活用に使用するシステムやサービス)
 利用者情報・種別・OD情報・円でコンテンツの利用情報等のデータをLooker Studio上でグラフ及びGISで可視化し、航路路線の曜日・時間帯の再編や集客チャンネルの検討ならびに合わせて観光消費のサービス提供効率を図る

座組



スケジュール

11月～11月末日 要件定義

12月～12月末日 システム開発

1月～2月末日 実証運行

～2月末日 効果測定

課題

唐津市では人口減少や高齢化が進行し、自家用車の依存度向上。高齢者の運転免許証返納による交通不便が将来的にも課題であるとともに公共交通利用者数の減少に伴い、自治体の財政負担が増加。観光分野では、公共交通を活用した二次交通の充実が課題。観光客が自家用車なしで移動できる環境を整備するため、観光施設との連携や企画乗車券の導入が必要。観光地へのアクセス向上や観光客向けの情報提供を強化し、公共交通を利用した観光促進を図ることが必要。

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
昭和自動車、ドリームラインたかしまにsteria transitを導入。乗車サービスの向上とMaaS基盤の構築を実施し、公共交通利用頻度の向上および事業者の持続性向上を図る

生活者向けサービスの向上

- ・公共交通のキャッシュレス化
- ・昭和自動車(からつ号)とドリームラインたかしまの連携サービス
- ・デジタル企画乗車券の造成および観光情報発信の拡大

[モビリティ・データの取得と活用]

タッチ決済による交通利用と消費、観光活動をキャッシュレスデータから分析

[地域交通政策等との連携]

唐津地域公共交通計画では、地域間幹線と地域内支線を維持しつつ、デマンド交通や次世代モビリティサービスを導入することで、持続可能な移動サービスを実現することを目指すことが記載されており、本事業と合致する

効果

- 公共交通利用環境の向上。特に現金レスにより住民や高齢者がより簡単に利用可能
- 過疎地域や交通空白地帯での移動手段確保の可能性拡大
- 移動データと消費データの見える化による施策実行可能性の向上

事業の新規性

- ・steria transitのMaaSチケットにおいて、バスと離島船舶との連携を実施
- ・福岡方面から観光客流入と唐津市内での消費活動、高島への移動が一元的に把握できるようになる
- ・また、キャッシュレス化の促進による利便性向上につながる対象者に対し、新規サービスの検討が容易になる

事業エリア
/交通事業
(予定)

事業エリア：唐津市

交通事業：昭和自動車、佐賀玄海漁業協同組合(ドリームラインたかしま)

MaaS
アプリ等

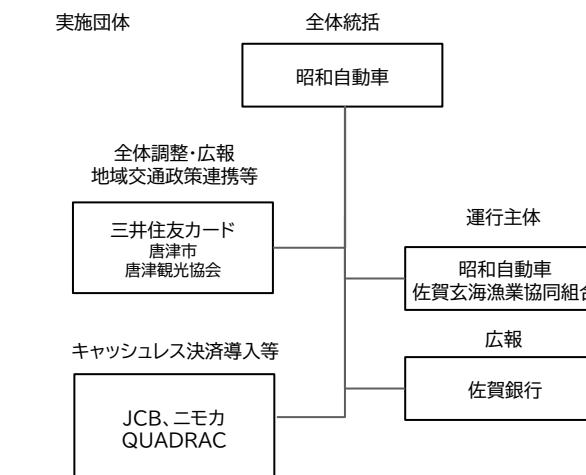
steria transit、SMCC MaaSアプリ

データの
活用等

- データの取得方法:steria transit、Custella transit、JCB Data Driver
 - データの活用方法
- 目的:乗降データやユーザー属性・消費データの取得のため
使用するサービス:steria transit

座組

実施団体



スケジュール

11月 サービス要件検討

12月-1月 システム開発～テスト環境試験

2月 本番環境試験～実証運行

3月 効果測定

課題

- 現在の人の流れに路線バス網が対応していないため、市内の移動が不便な状況であり市民のニーズ、人の流れに対応した路線バス網の形成と、交通弱者の活動を支える移動手段の確保が求められている。
- 市民の移動実態をデータ等で把握ができておらず、交通網再編に苦慮している。

プロジェクト概要

- [交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
- エリア内の路線バスとタクシーの利用が可能なMaaSアプリを導入。
 - 路線バス2社に対し端末導入を行いSF乗車対応を行いつつ、エリア内のバス、タクシー利用をセットにした企画乗車券を造成し、QRチケットによるデジタル認証を可能にする。
- [モビリティ・データの取得と活用]
- エリア内のバス事業者、タクシー事業者から本企画券利用時の認証履歴から利用実績(ODデータ)を取得する。
 - ODデータを活用し、市内の周遊状況を可視化。公共交通網ハブの整備や、支線バス導入検討の資料として活用する。
- [地域交通政策等との連携]
- 地域公共交通計画ではバス路線の再編および利用環境の充実、公共交通の利用喚起等の検討が示されており、MaaSアプリから取得したODデータや利用者情報を活用し、適正な運行本数やバス停位置、路線再編に活用する。

効果

- 本取り組みによる公共交通の利用促進および市内周遊促進
- 交通再編への参考となる利用データの収集、利活用

事業の新規性

- これまで未対応であったSF乗車の導入と、路線バスとタクシーとの連携によるマルチモーダルなMaaSチケットの提供

事業エリア
/交通事業
(予定)

事業エリア:沖縄県南城市
バス:南城市Nバス、東陽バス
タクシー:沖東交通

MaaS
アプリ等

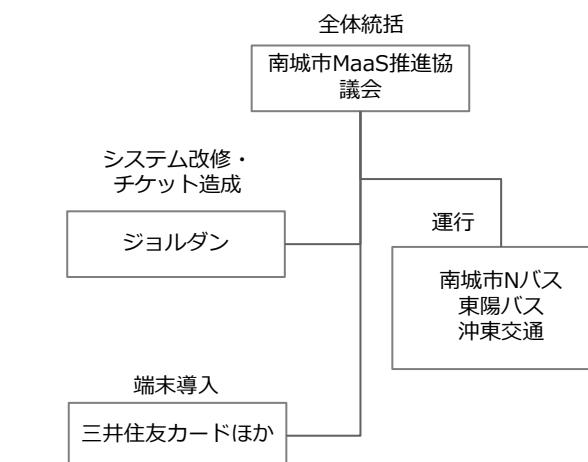
- MaaSプラットフォーム:ジョルダンモバイルチケットサービス
- タクシー配車連携システム:調整中

データの
活用等

- データの取得方法:MaaSアプリから利用者情報、バスのODデータを認証機から取得
- データの活用方法: ODデータや利用者情報を用いて、路線バスにおける路線再編や、利用環境、運賃体系などの改善、新たな交通体系の導入などの検討、実施に利活用

座組

スケジュール



11月 要件定義
11月～1月 システム開発
2月 実証運行
2月～3月 効果測定

課題

- 宮古島島内の移動における、路線バス、タクシー等の交通機関の利便性向上
- 路線バス(4社)の運賃収受方法が不統一となっていることの解消(キャッシュレス未対応2社)
- 高齢者等の交通弱者の活動を支える移動手段の確保

プロジェクト概要

- [交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]
- エリア内の路線バスとタクシーの利用が可能なMaaSアプリを導入。
 - キャッシュレス未対応の路線バス2社に対し端末導入を行うことでSF乗車対応を行いつつ、エリア内のバス、タクシー利用をセットにした企画乗車券を造成し、QRチケットによるデジタル認証を可能にする。

[モビリティ・データの取得と活用]

- エリア内のバス事業者、タクシー事業者から本企画券利用時の認証履歴から利用実績(ODデータ)を取得する。
- ODデータを活用し、市内の周遊状況を可視化。低利用路線の廃止と代替交通としてのデマンドバスの導入検討の資料として活用する。

[地域交通政策等との連携]

- R6年に策定された宮古島市地域公共交通計画ではR10年までに持続可能な公共交通、誰でも利用しやすい公共交通の提供等が基本方針として掲げられており、MaaSアプリから取得したODデータや利用者情報を用いて、路線バスにおける路線再編や、利用環境、運賃体系などの改善、新たな交通体系の導入などの検討、実施に利活用する。

効果

- MaaSチケット導入およびキャッシュレス対応による地域公共交通の利便性向上
- 本取り組みによる公共交通の利用促進および市内周遊促進
- 交通再編への参考となる利用データの収集、利活用

事業の新規性

- 宮古島における主な既存交通網のキャッシュレス対応と、路線バスとタクシーとの連携によるマルチモーダルなMaaSチケットの提供

事業エリア
/交通事業
(予定)

事業エリア:宮古島市
バス事業者:宮古協栄バス、八千代バス、共和バス、中央交通
タクシー事業者:まるちくタクシー

MaaS
アプリ等

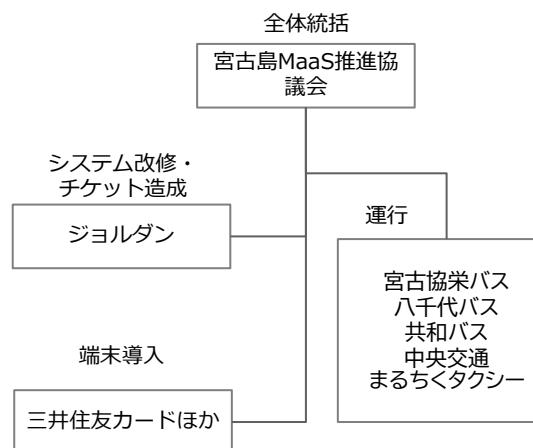
- MaaSプラットフォーム:ジョルダンモバイルチケットサービス
- タクシー配車連携システム:調整中

データの
活用等

- データの取得方法:MaaSアプリから利用者情報、バスのODデータを認証機から取得
- データの活用方法: ODデータや利用者情報を用いて、路線バスにおける路線再編や、利用環境、運賃体系などの改善、新たな交通体系の導入などの検討、実施に利活用

座組

スケジュール



11月 要件定義

11月～1月 システム開発

2月 実証運行

2月～3月 効果測定

課題

- 西表島島内の路線バスにおける、現金収受、MaaSアプリ等デジタルチケット乗車、クレジットカード決済等の支払手段の多様化に伴う乗降時間の長期化
- 現行のキャッシュレスでの利用困難な高齢者、子どもへの支払手段の確保

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 西表島の路線バスに顔認証システムを導入し、新たな運賃収受手段としての有効性および乗降時間の短縮効果の検証と、クレジットカードやスマートフォン等のデジタル端末を保持できない層への移動をサポート、全てのユーザーが利用可能なキャッシュレス対応を実現するとともに、路線バスと水牛車の共通利用券を造成し、シームレスな利用体験を提供する。

[モビリティ・データの取得と活用]

- これまで取得が困難であった高齢者、子どもの利用データを顔認証での認証によりODデータの取得を可能にする。

[地域交通政策等との連携]

- 高齢者向けお出かけサポート促進、小中学生向けの通学目的での路線バス利用等、島内の移動手段の確保、拡充等の施策検討にあたり、本取り組みによるODデータの取得により、町民全体での利用状況の把握を実現する。

プロジェクト概要

効果

- 現行のキャッシュレスの仕組みを利用できない層への本システムの導入による利便性の向上および路線バスの利用促進
- MaaSアプリ等では取得できないユーザー層のODデータの取得

事業の新規性

- 利便性向上のために導入推進されてきた現金以外の運賃収受手段を利用できなかった層に対し、キャッシュレスでの利用を提供するとともに、これまでODデータの取得が困難であった層の利用状況を顔認証システムによる認証によって顕在化させる

事業エリア / 交通事業 (予定)

事業エリア:竹富町(西表島)
バス:西表島交通株式会社
水牛車:株式会社由布島

MaaS アプリ等

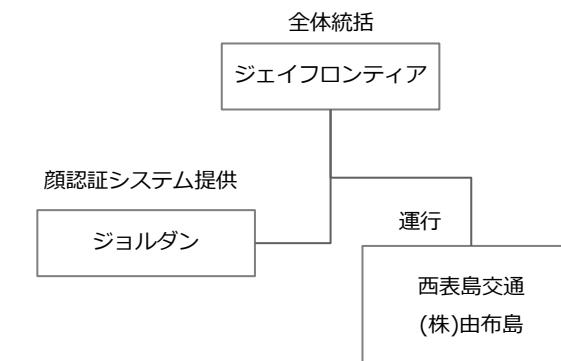
- 顔認証システム:Jorudan Style Point&Pass
- ODデータ:現行システムの改修について確認中

データの活用等

- データの取得方法:顔認証システムによる認証結果、ODデータ作成
- データの活用方法:本システムでのODデータにより、高齢者、子ども等の利用状況を顕在化させ、施策検討にあたっての基礎データとして活用を行う。

座組

スケジュール



11月 要件定義
11月～1月 システム開発
2月 実証運行
2月～3月 効果測定